

学校研究だより

第5号

平成31年2月22日(金)

学校研究委員会



第6回校内研修会

2月21日(木)に、第6回校内研修会を実施しました。

この研修会には、中京大学教授 杉江修治先生をお招きし、授業改善の視点に立ってご講演をしていただきました。

講演に先立って、各教室をまわっていただき、本校の授業を見ていただきました。その中で、美術科の授業では、単元の見通しを先に示しているの、生徒たちが今日の授業では何をすべきかしっかりと理解し生徒自らが学習活動を行っている点、また、体育科の授業では、3年間の見通しをもって集団で指導している点を評価していただきました。しかし、まだまだ改善すべき点は多々あり、講演で改善すべき視点を示していただき、自分の授業をふり返る機会を持つことができました。

～感想～

杉江先生のお話を聞いて、自分は教員・生徒間の会話を、生徒同士の会話よりも優先させてしまっていることに気がつきました。今年度は特に生徒の英語のアウトプット量を増やすことに力を入れていますが、杉江先生のお話を聞いて、まだまだ様々な場面で学び合い、話し合いなどの機会を増やすことができると感じました。全体指導にしている単語学習や、読取りの答え合わせなど、もっとあらゆる場面に学び合いを取り入れ、生徒にとってより実りある授業にしていけるよう、日々の教材研究や授業改善に力を入れていきたいです。

授業ごとにどこに問題点があるのかが明確になった。多くの視点を教えていただいたことで、より良い授業にする方法をひとつひとつ考えたいです。特に、教材研究には、今以上に丁寧にしていきたいです。

自分の授業はまさに「問答」。少しでも生徒同士が話す参加度の高い授業をしなければいけないと改めて感じた。生徒をどう動かすかまでのプランをしっかり立てた教材研究をしなければいけないと思う。難しいと思うが、「クラスの誰もが〇〇できる」という授業課題を作りたい。

今日の校内研修を通して、改めて授業設計の大切さを感じた。常に、より高いもの、そして確かな学びをめざしてこそ、私たち教師がしていくべきことだと思った。単なる思いつきの活動ではなく、3年間を見据えて、子どもたちがどんな力をつけることができるのかしっかりと把握できるように徹底していきたい。

生徒との問答や教科書をふせての授業など、自分がしてしまっているなぁと反省しました。授業改善の視点や新しいアイデアをいただくことができました。実践してみようと思います。また、学習に向かう構え、特にグループやクラスに対する個人の責任意識という言葉が印象に残っています。教科担任として、学級担任として「学習に向かう構え・意識」をしっかりと生徒が持てるような、導入、声かけ、発問一つ一つを見直そうと強く思いました。

